

第3回 右京区基本計画策定委員会 摘録

日 時：平成22年3月19日（月） 午後3時～午後5時

場 所：右京区役所5階 大会議室

出席委員：土井座長・神吉副座長・石川委員・石田委員・岩澤委員・大西委員・久保委員
坂口委員・高岡委員・高屋委員・中川委員・永橋委員・新妻委員・松井委員
宮崎委員・山下委員・久保田顧問

欠席委員：奥田委員・中沼委員・林委員・原委員・森委員

事務局：高溝区民部長・松葉総務課長・森まちづくり推進課長・山口京北出張所長
土居総務課担当課長補佐・太田総務課主任・福井総務課担当・朝倉京都市まちづくりアドバイザー・西原京都市まちづくりアドバイザー・松尾地域計画建築研究所計画部長
石本地域計画建築研究所取締役計画部長

1 開会

2 右京区基本計画の構成案について（資料1参照）

土井座長：基本計画の構成案について紹介させていただく。

Iの「右京区の基本計画とは」は、これまでの経過やこの計画の位置づけ、策定委員会や住民円卓会議、パブリックコメントなど、計画の役割と経過。IIは「右京区のまちの姿」として、右京区の現状、特徴、現状を踏まえて将来はこうなるのではないかという内容。

IとIIを踏まえIIIは「右京区が目指す将来像」としている。計画を進めていく際には目標となる将来像に向けて優先順位を決めていくことになり、非常に重要だ。将来像は今回の計画を一言で表すキャッチフレーズがあればいいと考える。

「計画の基本的な考え方」としては、(1)課題だけではなく長所をきちんと拾う。(2)右京区は地域ごとにさまざまな特徴があり、地域ごとの方向についても考える。(3)価値観の転換を促す。(3)については、例えば数年前とは違い、価値観が大きく変化しているなかで、区民の皆さんと一緒に考えながら、この時代にもっとも望ましい右京区のあり方を先導的に提示したいということだ。これらが「計画の基本的な考え方」だ。

次に「分野を横断する」と書いている。この3つの部会で考えた内容について、各分野で取り組むこともあるが、3つがお互いに関わるものもある。次世代に向けた人づくりや、地域産業の育成、特徴ある右京の資源を生かし、右京ならではのライフスタイルを実現すること、安全で安心して健康的に暮らせるまちをつくるなどこれらの右京区の将来像、ビジョンと、右京区の皆さんの夢とが重なったものが、IIIの「右京区が目指す将来像」でうまく表現できれば素晴らしいものになると考える。皆さんの意見を踏まえてうまく記述できればと思っている。

IV「まちづくりを進める仕組み」は大事なこと。4番目にもってきているのはまちづくりを進めるなかで、まず人をつくり、まちづくりができる場をつくること

非常に重要で、それから活動のノウハウも含めてまちづくりを進めていく。前回の基本計画では右京区まちづくり円卓会議が位置づけられたが、おそらく新しい円卓会議的なものがまちづくりを進める仕組みとして、これからの時代に合ったものを一緒に考え、実現していくことになる。Ⅴ「リーディングプロジェクト」とは、右京区のプロジェクトを実現するために皆さんがやりたいことや、基本計画の10年のなかで、これをやることで理想のまちに近づくとか、それを目指すことで皆さんの力がまとまっていくものであればいいと考えている。できるだけ具体的なことを考えている。

Ⅵ「基本的な方向」、Ⅶ「テーマと具体的な今後」は、3つの部会でこれまで検討された基本的な方向として、豊かな自然と歴史文化を活かしたまちづくりの部会からは4つ、魅力ある都市環境のまちづくり部会からは2つ、地域活動と安心安全なまちづくり部会では3つのテーマがある。この取組内容をベースに、リーディング・プロジェクトの話をしていただけるとありがたい。

3 右京区の将来像とリーディング・プロジェクトについて（各部会に分かれての議論）

※ 豊かな自然と歴史文化のまちづくり部会での主な意見

■交通

- 山ノ内浄水場の跡地をどうするか？大規模駐車場を設置し、パークアンドライドを促進
- 西京極運動公園までシャトルバスを走らせる
- 京都市全域や神戸・大阪も含めた公共交通機関の共通切符の発売
- JR東海道線や近鉄奈良線から嵯峨野山陰線への直接乗り入れなど、区を越えた交通の連絡
- 京福電鉄と地下鉄の乗りつぎ
- 幹線となる道路は産業にしても観光にしても必要

■右京ライフ

- 右京ライフとして、ペレット（木質燃料）の利用を
- まず公共施設でペレットストーブを広めていくなど
- 新しい生活スタイルのアイデアと観光が景観のところで合流するような取組がいい
- 通年のものや隠れた面白い資産、伝統を伝える観光で景観を守ることと結び付ける

■その他

- 農林業があるのは強みなのでそれを生かすことが必要
- 新産業については、どこが面白いのかを上手に発信し、実験場所や体験場所をつくる
- 新しいアイデアを出す機会や場をつくる

【将来像】

- 新しい生活スタイルのアイデアと観光が景観にマッチしていく感じがいい
- 豊かな資源と特徴ある資源をいかした右京ライフが実現している

【リーディング・プロジェクト】

- 新産業の実験場所や体験場所をつくる
- 共通切符のシステム

※ 地域活動と安心安全のまちづくり部会での主な意見

■次世代の関係づくり

- 人間関係が希薄になっている
- まちづくりは人づくり
- 人づくりが重要

■小学校

- 小学校単位で活動することが地域の人を集める成功のカギ
- 小学校を大切にすることが地域を、右京を大事にすることにつながる

■高齢者

- 身近なところで支えあわなければ、高齢者が孤立していく
- 高齢者と触れ合う場としてサンデーモーニングを開催
- 高齢者が集まれる場所と機会を増やす
- 高齢者に声かけできるようにする
- マンションでは高齢者世帯を把握しにくい
- 高齢者の孤独死や孤立化を防止する対策会議を

【将来像について】

- 高齢者が、何もなくても集って、話ができ、張り切っているまち。
- 隣近所や地域の中で行き交いができて、たわいない話がはずむまち。
- 何もしなくても、居心地がよいまち。
- 身近な地域の人びとが一番の支えになり、頼りになっているまち。
- 自治会の構成員が多世代にわたって、役員が存在しているまち。
- 役員、非役員に限らず、何かあれば地域の人と一緒にって事にあたれるまち。
- まちのいろいろな活動を通じて、新たな出会いや生きがい、喜びを得られるまち。
- それぞれの頑張りがお互い目に見えるようになっているまち。
- 不便さを、制度やシステムで解決するだけではなく、人と人との付き合いの中で解決していけるまち。
- 「一緒にやりましょうね」と気軽に声を掛け、新しい仲間を広がっていくまち。
- 気持ちよく「助けて」と言い合えるまち。

【リーディング・プロジェクト】

- 高齢者の孤独死や孤立化を防止するための緊急対策会議。
- いろんな学区の人が集まって、自分の学区の課題と対策について話し合う。
- 右京区隣組計画。
- 月に1～2回は回覧させるような工夫。
- 回覧板より口コミ。10回に1回くらいの声掛け。

※ 魅力ある都市環境のまちづくり部会での主な意見

■幹線道路

- 上野橋を改修する必要があるが梅津太秦線を上野橋と結ぶ
- 久世梅津北野線だと嵐電帷子ノ辻までで止まる
- 太秦地域の整備の話は梅津太秦線とリンクしている
- 梅津太秦線と御池通の西伸が地元でも意識されている
- 御池通と梅津太秦線を東西方向と南北方向の道路で幹線道路と位置付ける
- 道路の問題は時間がかかる
- 梅津太秦線をファーストステップとし、2番目に久世梅津北野線を考える

■福王子交差点

- 栗尾トンネルなど国道162号の整備ができれば福王子の交差点がさらに渋滞する
- 福王子渋滞問題の解決策として、途中の山越道と嵐山パークウェイを考える
- 山越道から丸太町通りに出て、久世梅津北野線を経由して桂川街道と結び付ける

■お互いさまの気持

- 公共空間の重要性を認識してもらう必要がある
- 住民もお互いに思いやる、遠慮する等の観点が必要（クルマ利用だけを優先しない気風）
- MM（モビリティ・マネジメント）もお互い様という感じ

■自転車

- 自転車が安心して乗れる道路がない
- 新たに整備する幹線道路の場合に歩道を広く、歩道に自転車が走るゾーンをつくる

■その他

- 10年でできるものとそれ以上かかるものと分けて考える
- 今一生懸命やっているところを押し上げることが大切
- 京都市の計画や地元の情報を知る必要がある
- 狭い視点・広い視点のほかに中間の話も必要
- 芯になる具体的で中間の話が必要
- 商店街はそれぞれ性格が違う

【将来像について】

- 楽しく歩けるまち・右京（歩いて楽しい道を確保していく）
- 単に歩くだけではなく、安全・快適・楽しくニコニコ・健康や道路、公共交通、観光もきちんと考える

【リーディング・プロジェクト】

- 公共交通のバス、電車が乗りやすくする工夫
- 「歩けるまち・右京」を考える区民会議
- 地域の魅力も含めて紹介するマップをつくる、どんどん更新する

4 全体のまとめについて

神吉副座長： 豊かな自然と歴史文化のまちづくり部会で議論した内容をご報告する。まず将来像については、基本的には美しい自然や景観を守りたい。一方で観光も大事だ。これまであまり注目されていなかった場所や資源を大事にし、新しい観光の姿を築き、そこから景観を守ることにつなげていけないかということ。暮らす立場では、今までであった地区の魅力を再発見し、そこから新しい価値を見抜いてそれを生活に取り入れるなど、新しい右京らしい暮らしで、景観を守ることに通じるような暮らし方を追求する。そのような関係性をつくりたいということがビジョンだ。そのような地域の姿をつくりたいということが目標像、将来像だ。

それに向けて、暮らしのアイデアをいろいろ考えていくことを含め、地域で今まで使われていたものを見直し、新しいニーズを掘り起こしていく。例えば山を守るための新産業に取り組んでおられるが、そのような新産業の面白さを発信していく。発信の仕方も合同実験調査など、具体的に体験できるようなまちをつくることで面白さの部分をわかりやすく発信していくようにする。それには交通についても考える必要がある。右京だけではなく広域的に、共通の切符システムなどで市内から1枚のカードで交通機関の乗り継ぎができるなど、スムーズに使えるようなつながり方ができないかといったご意見が出た。細かくいろいろあったが大きなテーマとしてはそのあたりだ。

永橋委員： 地域活動と安心安全のまちづくり部会での内容をご報告する。将来像として、1つは、今のマイナス部分が10年後にはプラスに転換している状況を提起している。例えば、今はなかなか自治会役員のなり手がいない、若い人が入ってこない、高齢者に役員があたると自治会そのものから抜けてしまうといったマイナスの状況がある。しかし、10年後には、自治会の構成員が多世代にわたって活動している状況を将来像の1つとして挙げたい。

2つ目に、孤立や、高齢者が困っていても助けてといえないという実態があり、「困ったときに助けてと言合えるまち」、「お互いに支え合えるまち」、「何か事が起こればみんなで話し合って助け合えるまち」ということが出てきた。新しい世代も含めて10年後には「お互いに支え合えるまち」になっていたらいいね、そのためにそうした関係を今から築き上げていきましょう、という話になった。

付随して出てきた話としては、不便さを解消しようとして制度や設備がつくられているが、それでは他人任せになってしまう。不便さを人のつながりや支え合いで解決できるまちになればいいという話になった。国や市に仕事はしてもらおうが、身近な人がいちばん支えになり、お互いに支え合って、そのなかで初めて自立が成立する。これはおそらく京都、右京のまちで大事にされてきたことで、もう一度原点に戻って10年後にもきちんと実現できるようにする。そのような将来像が出てきた。

もう1つ、何か活動しなくてもお互いに認め合え、心地よく住めるまちがいいという意見もあった。

リーディングプロジェクトは、価値観の転換ということであれば「助けてと言

合えるまち」に関して、高齢者を下の世代が助けるだけではなく、若い人が高齢者から助けられる場合や、高齢者の話や知恵から学ぶ場合もあるということを大事にしていきたい。そのような場として運動会はどうか。実際に、若い人でも高齢者に負けるという競技があり、それは新たな出会いや新しい価値観に気づくきっかけになる。運動会や他の行事でも、多世代が出会い交流できる機会をたくさん設けると、若い人を自治会活動に誘う機会も増える。

今、孤独化や孤立を避けるための訪問が困難な状況になっている。プライバシーの問題と地域の安全を両立させるには、行政と地域の役員たちが話し合い、どうするかの知恵を集める会議が早急に必要ではないか、ということも提起された。

土井座長： 魅力ある都市環境のまちづくり部会では、将来像としては「楽しく歩けるまち・右京」を掲げたい。京都市では「歩くまち・京都」のプランをつくられたが、右京は、今ゆっくり歩ける空間がなかなかない。楽しく歩けるまち・右京を考える区民会議をリーディングプロジェクトの1つにする。学区単位で、先導的にされているMM（モビリティ・マネジメント）の取組はすぐれた事例だ。学区のエリアとは違って関連する人たちが集まるチームをつくってもいい。そこには幹線道路や生活道路、バスや電車を乗りやすくすることや観光の話も関係してくる。継続的にMMをして互いに話をする中で、「お互い様」がわかってくるような効果もあると考える。単に安全に歩けるだけではなく、楽しく・ニコニコと歩ければ健康にもいい。

地域の人にいろいろな活動を知ってもらうことが大切。右京全体の話や、目の前の地域の話をする人が多いが、中間のことを話す場があまりない。中間の話のなかに実は子育てや介護、教育等がある。これをすくい上げる仕組みがいる。活動を地域の人たちに知ってもらい、困っている人にお答えすることが大事で、それには住民の意識の改革が必要だ。道路や公園もお互い遠慮しあうことでより使いやすい場になる。それらも含め、楽しく歩ける右京を考える区民会議で話をしていけばいいのではないかとすることが1つ。

2つ目のリーディングプロジェクトは、地域の魅力を紹介するマップを作成し、常に更新していく仕組みはどうか。継続してお互いに紹介しあうことは、地域の魅力を大切にし、観光ネックレス構想で各地域の連携を大事にしていくことにもつながる。

3つ目は、道路整備問題だ。栗尾峠の工事が着工し、京北から市内へ行きやすくなるが問題は福王子の交差点だ。途中で抜いていくしかないの、まず山越から丸太町への道路を改良して大型車は山越を通っていくようにし、乗用車は高雄パークウェイから逃れて丸太町に行けるような位置づけをしてはどうかということが1つ。

もう1つは久世梅津北野線の話だ。西京区の桂川街道から梅津地区を超えて四条通に行く都市計画道路はまっすぐ帷子ノ辻に当たり、帷子ノ辻から京福電鉄の軌道を通り白梅町に行く道路になっている。軌道と重なる部分は見直しが必要になろう。都市計画道路の梅津太秦線を山陰線の高架をテコにして、映画村の前の道路が裁判所の前まで拡幅し、もっと南までもっていく。また御池通が西伸したが、梅津太秦線の交点までもっていききたい。10年という単位で右京区の問題として考えるなら

梅津太秦線を中心に、南北方向の幹線道路を梅津太秦線とし、東西方向の幹線道路は御池通を梅津太秦線までもってくることを大きな骨格として考える右京区民としてはできるだけ早く南北方向の自動車交通をきちんとして、生活道路にできるだけ車が入ってこないような骨格づくりをする。将来的にこれができるあと、久世梅津北野線をどうつくっていくかを議論すると考えてはどうかということを話し合った。以上のような議論を行ったことを報告する。

事務局 : リーディング・プロジェクトについてはキーワードの段階で、まだこれから出るだろう。

土井座長 : 今の話は地域の人たちとも関係する問題なので、現段階では「要協議」だ。

事務局 : 安心安全の部会からは「助けてと言ひ合えるまち」「何もしなくても居心地のいいまち」などのキーワードもあった。今日1つにまとめるのは無理だと考える。ただ、リーディングプロジェクトを見ると、歴史文化の部会からも観光も含めた移動の問題についての話や市民会議の話など共通している部分がかなりある。

5 今後のスケジュールについて

高溝部長 : お手元の資料に今後のスケジュール案をお示ししている。(資料2 参照)

■閉会